

開講年度	2022 年度	科目名	生活支援技術
------	---------	-----	--------

1. 科目概要

科目コード		教 科	福祉		単位数	3 単位	
開設学年	1 学年	開設学科	生物生産科	農業機械科	食品科学科	総合ビジネス科	介護福祉科
							○
教科書(出版社)	生活支援技術（実教出版）最新・介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」（中央法規） 最新・介護福祉士養成講座 7「生活支援技術Ⅱ」（中央法規）						
副教材(出版社)	介護福祉スタッフのマナー 基本テキスト（日本能力協会マネジメントセンター）						

2. 学習のねらい（到達目標）

1.	人の尊厳の保持や自立支援を理解し、基礎的な介護の知識と技術を身に付ける。
2.	デイサービスセンターやグループホームの利用者に適切かつ安全に支援できる能力と態度を身に付ける
3.	自立生活の支援の展開に関する課題を発見することができる。
4.	職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
5.	自立生活の適切な支援に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。
6.	

3. 評価の観点

知識・技能	基礎的な介護の知識と技術を身に付け、基礎的な介護の知識と技術を実践することができる。
思考・判断・表現	安全・安楽、自立支援のための基礎的・基本的な介護技術について考えている。
主体的に学習に取り組む態度	基礎的な介護の知識と技術に関心を持ち、意欲的に実習に参加し、知識や技術を学ぼうとしている。

4. 評価基準

評価の観点	A 評価の目安 (理想的な到達レベル)	B 評価の目安 (標準的な到達レベル)	C 評価の目安 (未到達レベル)
知識・技能	・授業で理解した知識や技術などを応用し、深い理解につなげることができる。	・基礎的な知識や技術を理解し、具体的に説明することができる。	・知識や技術など基本的な事項が十分理解されず、内容や展開について説明を十分できない。
思考・判断・表現	・自立支援のための視点を持ち、疾患や身体状況に応じて考察することができる。	・安全、安楽のための基礎的・基本的な介護技術について考えることができる。	・基礎的・基本的な介護技術に関する興味関心が低い。
主体的に学習に取り組む態度	・授業で学んだ介護技術について自ら積極的に活用することができる。	・授業で学んだ介護技術を教科書等で復習しながら理解に努めている。	・実習に対する意欲が見られず、レポートの内容も不十分である。

5. 評価方法

評価の観点をふまえ、次の各項目を総合的に勘案して評価する。

- ・定期試験（5 回）
- ・提出物の状況（授業プリントや実習レポート）
- ・学習態度（出席、意欲、態度など）
- ・実技試験

6. 授業の受け方・留意点

- ・授業では、教材の読解や理解に努め、質疑や応答では積極的に発言をする。
- ・実技では実習着をきちんと着用し、積極的に実習に取り組み、実習レポートを提出すること。
- ・ノートやプリントなどに授業の中で学習した内容を記録する。
- ・前日に実習の準備を行い、忘れ物をしないこと。

7. 学習計画

						評価の観点		
学期	月	章	単元・学習内容	学習のねらい（到達目標）		知	思	態
1	4	1	私たちの暮らしと生活支援	- 生活がどのような側面から構成されているか理解し、自分の生活について考察することができる。 - 生活について、人間の発達段階と関連づけて理解する。 - 生活支援の対象者や生活支援の考え方、ICFについて理解する。 - 居住環境の整備の視点を理解する。 - 現在の居住環境は、高齢者の生活にどのような影響を与えているかを理解し、高齢者に適した住宅を説明することができる。 - 高齢者の自立を支援するための住まいについて理解する。 - 住宅および施設の環境整備の具体的な進め方を説明できる。 - 居住環境の整備における技術を身につける。（シーツの扱い方・ベッドメイキング・シーツ交換） - 移動の介護における基本的姿勢について習得する。（体位・安楽な姿勢・立ち上がり・ボディメカニクス） - 人間の生活のなかで、移動がいかに大きな意味をもつかを考え理解することができる。		○	○	○
	5		- 生活支援の理解 - 生活支援に向けたアセスメント			○		
	6	2	自立支援に向けた生活支援			○		
	7	4	- 居住環境の整備 - 移動の介助			○	○	○
2	8		自立に向けた生活支援	- 安全で安楽な移動の介助の方法を習得する。 - 移動・移乗における基本的な知識と技術を身に付ける。（歩行介助・車いす介助・体位変換） - 移動・移乗における基本的な知識と技術を身に付ける。（車いすへの移乗・ベッド上での移動） - 身じたくの意義と目的を理解する。 - 身じたくにおける介護技術を習得する。（衣服の着脱・整髪） - 入浴・清潔保持の意義と目的を理解する。 - 入浴・清潔保持における介護技術を身に付ける。（清拭・部分浴の介助・一般浴の介助・特殊浴の介助） - 食事の意義と目的を理解する。 - 食事における介護技術を身に付ける。（食事の介助・口腔ケア） - 食事における他職種の役割と協働について理解する。		○	○	○
	9	4	移動の介助			○	○	○
	10	3	身じたくの介護			○	○	○
	11	6	入浴の介助			○	○	○
	12	5	食事の介助			○	○	○
						○		
						○	○	○
3	1	7	自立に向けた生活支援	- 排泄の意義と目的を理解する。 - 排泄における介護技術を身に付ける。（尿器、便器の介助・ポータブルトイレ・おむつ交換） - 睡眠の意義と目的を理解し、介護技術を身に付ける。（安眠のための介助・不眠時の介助）		○	○	○
	2		排泄の介護			○	○	○
	3	8	睡眠の介護			○	○	○

福祉科 「生活支援技術」 (医療的ケアを含む)	単 位 数	3 単位
	学科・学年	介護福祉科 (2 年)

(1) 学習のねらい (目標) および使用教材

学習到達目標	自立生活を支援するための介護の役割を理解し、介護実習により介護等に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得するとともに、様々な介護場面において支援できる能力と態度を育てる。また、介護現場に必要な医療的ケアについて、医療職との連携のもと、安全・適切に実施できるよう、必要な知識や技術を習得する。
使用教科書 副教材	生活支援技術 (実教出版) 最新・介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」 (中央法規) 最新・介護福祉士養成講座 7「生活支援技術Ⅱ」 (中央法規) 最新・介護福祉士養成講座 15「医療的ケア」 (中央法規) 介護福祉スタッフのマナー 基本テキスト (日本能力協会マネジメントセンター)

(2) 評価の観点および評価方法

評価の観点	関心・意欲・態度 高齢者や障害者の自立支援について関心を持つとともに、実習等を通して、総合的な知識と技術を学習し、利用者のニーズについて主体的に学習しようとする態度が身に付いている。 思考・判断・表現 自立した生活についてよく考え、高齢者や障害者に応じた支援方法を適切に判断できる。また、習得した知識と技術を実践し、記録や報告等で実施手順や問題点、利用者の状況等を表現することができる。 技能 高齢者や障害者に対して、安全・安楽な介護技術を実施することができる。 知識・理解 日常生活の支援技術に関する基礎的な知識を身に付け、利用者に応じた支援方法について理解している。
評価方法	学習活動状況 (出席・意欲・態度等)、レポートの提出・筆記試験・実技試験で総合的に評価する。

(3) 授業の受け方および学習方法

授業の受け方 および学習方法	利用者の個性を理解し、一人ひとりが異なった支援が必要であるため、基礎基本をしっかりと理解し、技術を習得する。また、利用者の心理的な側面も模擬体験し理解する。 介護実習での実践の基礎となるので、積極的に取り組み、現場で通用する確実な技術と態度を身に付ける。
-------------------	--

(4) 学習計画

「1 学期」

項 目	学 習 の ね ら い
医療的ケア実施の基礎	・医療的ケアを実施するための基礎知識を理解する。 ・医療的ケアに関連する法制度や倫理等を学ぶ。 ・感染予防、安全管理体制についての基礎知識・技術を習得する。
自立に向けた生活支援技術	・家事のもつ意義について理解し、家事の自立に必要な基本的知識について学ぶ。

・家事の介護	・家事の自立に不可欠な技術とその指導方法を学ぶ。 ・家庭生活の営みや果たすべき役割を学ぶ。
--------	--

「2 学期」

項 目	学 習 の ね ら い
喀痰吸引（基礎的知識・実施手順・演習）	・呼吸器系のしくみ、吸引を受ける人の気持ちの理解など、喀痰吸引の基本的知識を理解する。 ・安全、安楽な喀痰吸引の技術を習得する。
経管栄養（基礎的知識）	・消化器系のしくみ、経管栄養を受ける人の気持ちの理解など、経管栄養の基本的知識を理解する。
自立に向けた生活支援技術	・レクリエーションの意義を学ぶ。 ・介護におけるレクリエーションとは何かを学ぶ。
・レクリエーションにおける介護	・個人の尊厳を重視した終末期ケアの意識と介護に求められる役割について学ぶ。
終末期・緊急時の介護	・終末期におけるチームケアと他職種との連携のあり方について学ぶ。
・終末期の介護	

「3 学期」

項 目	学 習 の ね ら い
終末期・緊急時の介護	・終末期における4つの苦痛に対する介護、危篤時の介護、死後の処置を学び、介護職として必要な基礎的な知識と技術を習得させる。
・緊急時の介護	
経管栄養（実施手順・演習）	・経管栄養に使用する物品や経管栄養の種類を具体的に学ぶ。 ・経管栄養を安全に実施するための手順を学ぶ。 ・経管栄養に使用する物品の清潔な取り扱いや消毒方法について学ぶ。
救急蘇生法	・救急蘇生法について、心肺蘇生法の技術を習得する。

福祉科 「生活支援技術」	単 位 数	4 単位
	学科・学年	介護福祉科（3 年）

（１）学習のねらい（目標）および使用教材

学習到達目標	自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解し、介護実習により介護等に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得する。また様々な介護場面において適切かつ安全に支援できる能力と態度を育てる。
使用教科書 副教材	生活支援技術（実教出版） 最新・介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」（中央法規） 最新・介護福祉士養成講座 7「生活支援技術Ⅱ」（中央法規） 最新・介護福祉士養成講座 8「生活支援技術Ⅲ」（中央法規） 介護福祉スタッフのマナー 基本テキスト（日本能力協会マネジメントセンター）

（２）評価の観点および評価方法

評価の観点	関心・意欲・態度 高齢者や障害者の自立支援について関心を持つとともに、介護実習等を通して、総合的な知識と技術を学習し、利用者のニーズについて主体的に学習しようとする態度が身に付いている。 思考・判断・表現 自立した生活についてよく考え、高齢者や障害者に応じた支援方法を適切に判断できる。 技能 高齢者や障害者に対する介護に関して、基礎基本を身につけている。また、習得した知識と技術を介護実習で実践できるとともに、日誌等の記録に問題点を表現することができる。 知識・理解 日常生活の支援技術に関する基礎的な知識を身に付け、利用者に応じた支援方法について理解している。
評価方法	学習活動状況（出席・意欲・態度等）、レポートの提出・筆記試験・実技試験で総合的に評価する。

（３）授業の受け方および学習方法

授業の受け方 および学習方法	利用者の個性を理解する。また、利用者の心理的な側面も体験的に理解する。 介護実習での実践の基礎となるため、積極的に取り組み、現場における確実な技術と態度を身につける。
-------------------	---

（４）学習計画

「1 学期」

項 目	学 習 の ね ら い
利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは	・ 傷害や疾病とともに生活する人の背景を理解する。 ・ 「生活支援」を行う意義（目的）を学ぶ。 ・ 他職種連携の意義（目的）を知る。
障害に応じた生活支援技術Ⅰ ・ 肢体不自由に応じた介護	・ 各障害について、医学的・心理学的側面から学ぶ。

・視覚障害に応じた介護 ・聴覚・言語障害に応じた介護 ・重複障害<盲ろう>に応じた介護	・各障害のある人の生活上の困りごとについて学ぶ。 ・各障害のある人への支援において、他職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。
---	---

「2 学期」

項 目	学 習 の ね ら い
障害に応じた生活支援技術 I ・【内部障害】心臓機能障害に応じた介護 ・【内部障害】呼吸器機能障害に応じた介護 ・【内部障害】腎臓機能障害に応じた介護 ・【内部障害】膀胱・直腸機能障害に応じた介護 ・【内部障害】小腸機能障害に応じた介護 ・【内部障害】HIV による免疫機能障害に応じた介護 ・【内部障害】肝臓機能障害に応じた介護 ・重症心身障害に応じた介護	・各障害について、医学的・心理学的側面から学ぶ。 ・各障害のある人の生活上の困りごとについて学ぶ。 ・各障害のある人への支援において、他職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。

「3 学期」

項 目	学 習 の ね ら い
障害に応じた生活支援技術 II ・知的障害に応じた介護 ・精神障害に応じた介護 ・高次脳機能障害に応じた介護 ・発達障害に応じた介護 ・【難病】筋萎縮性側索硬化症(ALS)に応じた介護 ・【難病】パーキンソン病に応じた介護 ・【難病】悪性関節リウマチに応じた介護 ・【難病】筋ジストロフィーに応じた介護	・各障害について、医学的・心理学的側面から学ぶ。 ・各障害のある人の生活上の困りごとについて学ぶ。 ・各障害のある人への支援において、他職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。